



## システム コンポーネントの設定

Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) コマンドを使用して、Cisco Unity Express システムのコンポーネントを設定できます。EXEC モードで入力するコマンドと設定モードで入力するコマンドがあります。

この章では、Cisco Unity Express の次の基本コンポーネントを設定する方法について説明します。

- Cisco Unity Express が Cisco CallManager と通信するために必要な JTAPI パラメータ
- Cisco Unity Express に付属しているボイスメール、自動受付、プロンプト管理システムの各アプリケーション

サーバやカスタム自動受付スクリプトなど、オプションまたは拡張のシステム コンポーネントの設定手順については、[P.153](#) の「[詳細設定](#)」を参照してください。

この章の手順はすべて、CLI コマンドまたは Graphical User Interface (GUI; グラフィカル ユーザー インターフェイス) オプションのいずれを使用しても実行できます。大量のプロビジョニング、スクリプト処理、アップグレード、およびトラブルシューティングをシステムに対して行うには、CLI で手順を実行します。

この章では、Cisco Unity Express システムのコンポーネントを設定する手順について説明します。この章は、次の項で構成されています。

- [JTAPI パラメータの設定 \(P.66\)](#)
- [ボイスメールアプリケーションの設定 \(P.68\)](#)
- [Administration via Telephone アプリケーションの設定 \(P.71\)](#)
- [自動受付アプリケーションの設定と管理 \(P.72\)](#)
- [自動受付スクリプトの設定 \(P.79\)](#)
- [アプリケーションの JTAPI トリガーの設定 \(P.80\)](#)
- [JTAPI アプリケーション トリガーの削除 \(P.83\)](#)
- [アプリケーションの削除 \(P.85\)](#)
- [システム全体のメールボックスのデフォルト値の設定 \(P.89\)](#)
- [AIM フラッシュ メモリの使用状況の確認 \(P.91\)](#)
- [システムの言語の設定 \(P.91\)](#)
- [パスワードおよび PIN のパラメータの設定 \(P.92\)](#)
- [営業時間の設定 \(P.96\)](#)
- [休日リストの設定 \(P.102\)](#)

## JTAPI パラメータの設定

Cisco Unity Express が Cisco CallManager と通信するために必要なパラメータを設定するには、この手順を使用します。

### 前提条件

JTAPI パラメータを設定するには、次の情報が必要です。

- プライマリ、セカンダリ、およびターシャリの Cisco Manager サーバの IP アドレスまたはホスト名
- Cisco CallManager の JTAPI ユーザ ID およびパスワード。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。これらの値は、Cisco CallManager に設定された JTAPI ユーザ ID およびパスワードと一致する必要があります。
- CTI ポートのリスト

### 概略手順

1. **config t**
2. **ccn subsystem jtapi**
3. **ccm-manager address** {*primary-server-ip-address* | *primary-server-hostname*}  
{*secondary-server-ip-address* | *secondary-server-hostname*}  
{*tertiary-server-ip-address* | *tertiary-server-hostname*}
4. **ccm-manager username** *jtapi-user-id* **password** *jtapi-user-password*
5. **ctiport** *cti-port-number*
6. **end**
7. **exit**
8. **show ccn subsystem jtapi**
9. **copy running-config startup-config**

### 詳細手順

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 1	<b>config t</b>  se-10-0-0-0# <b>config t</b> se-10-0-0-0(config)#	設定モードを開始します。
ステップ 2	<b>ccn subsystem jtapi</b>  se-10-0-0-0(config)# <b>ccn subsystem jtapi</b> se-10-0-0-0(config-jtapi)#	JTAPI 設定モードを開始します。

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 3	<pre> <b>ccm-manager address</b> {primary-server-ip-address   primary-server-hostname} {secondary-server-ip-address   secondary-server-hostname} {tertiary-server-ip-address   tertiary-server-hostname}  se-10-0-0-0(config-jtapi)# ccm-manager address 10.100.10.120 se-10-0-0-0(config-jtapi)# ccm-manager address 10.100.10.120 10.120.10.120 10.130.10.120 </pre>	<p>Cisco CallManager サーバを最大 3 つまで指定します。サーバの IP アドレスまたはホスト名は、1 つのコマンドラインまたは別個のコマンドラインで入力できます。別個のコマンドラインで入力した場合、サーバがプライマリ サーバ、セカンダリ サーバ、およびターシャリ サーバの順に割り当てられます。</p>
ステップ 4	<pre> <b>ccm-manager username jtapi-user-id password</b> jtapi-user-password  se-10-0-0-0(config-jtapi)# ccm-manager username jtapiuser password myjtapi </pre>	<p>JTAPI ユーザ ID およびパスワードを指定します。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。これらの値は、Cisco CallManager に設定された JTAPI ユーザ ID およびパスワードと一致する必要があります。</p>
ステップ 5	<pre> <b>ctiport cti-port1 cti-port2 cti-port3</b> cti-port4...  se-10-0-0-0(config-jtapi)# ctiport 7008 se-10-0-0-0(config-jtapi)# ctiport 7009 se-10-0-0-0(config-jtapi)# ctiport 7010 se-10-0-0-0(config-jtapi)# ctiport 7011  se-10-0-0-0(config-jtapi)# ctiport 6001 6002 6003 6004 6005 6006 6007 6008 </pre>	<p>Cisco CallManager に設定され、Cisco CallManager JTAPI ユーザに関連付けられている JTAPI の CTI ポートを指定します。</p> <p>このコマンドを繰り返して、複数のポート番号を入力するか、1 行にポートを入力します。AIM の場合は、4 つのポートを指定します。NM の場合は、8 つのポートを指定します。</p>
ステップ 6	<pre> <b>end</b>  se-10-0-0-0(config-jtapi)# end se-10-0-0-0(config)# </pre>	<p>JTAPI 設定モードを終了します。</p>
ステップ 7	<pre> <b>exit</b>  se-10-0-0-0(config)# exit se-10-0-0-0# </pre>	<p>設定モードを終了します。</p>
ステップ 8	<pre> <b>show ccn subsystem jtapi</b>  se-10-0-0-0# show ccn subsystem jtapi </pre>	<p>設定された JTAPI パラメータを表示します。</p>
ステップ 9	<pre> <b>copy running-config startup-config</b>  se-10-0-0-0# copy running-config startup-config </pre>	<p>コンフィギュレーションの変更部分をスタートアップのコンフィギュレーション ファイルにコピーします。</p> <p> (注) システムをリロードして、これらの CLI コマンドで指定した変更内容をアクティブにします。</p>

## 例

次の例は、**show ccn subsystem jtapi** の出力を示しています。

```
se-10-0-0-0# show ccn subsystem jtapi

Cisco CallManager:                10.100.10.120
CCM Username:                     jtapiuser
CCM Password:                      *****
Call Control Group 1 CTI ports:    7008,7009,7010,7011

se-10-0-0-0#
```

## ボイスメール アプリケーションの設定

Cisco Unity Express ソフトウェアをシステムにインストールした後、この項で説明されている手順を実行して、Cisco Unity Express に付属するボイスメール アプリケーションを設定する必要があります。このアプリケーションは、デフォルトで使用可能になっています。

ボイスメールのアクセスおよびオペレータの電話番号を設定するには、[P.80 の「アプリケーションの JTAPI トリガーの設定」](#)を参照してください。

EXEC モードと設定モードの両方でコマンドが使用されます。

## アプリケーションおよびトリガー間のポートの共有

ボイスメール アプリケーションおよび自動受付アプリケーション用に設定するパラメータの 1 つに、アプリケーションにいつでも同時にアクセスできる発信者の最大数があります。このパラメータである **maxsessions** は、Cisco Unity Express モジュール上のポート数によって制限されます（ご使用のモジュールのポート数については、[P.16 の「ソフトウェア ライセンスおよび工場で設定される制限」](#)を参照してください）。ポートは、**ctiport** コマンドを使用して設定されます（[P.66 の「JTAPI パラメータの設定」](#)を参照してください）。

アプリケーションにポート数を割り当てる場合は、予期されるコール トラフィックを考慮します。あるアプリケーションは別のアプリケーションよりも多くの使用可能なポートを必要とする場合がありますが、各アプリケーションでは着信通話用に少なくとも 1 つのポートを使用可能にする必要があります。

たとえば、モジュールに 4 つのポートがあり、ボイスメール アプリケーションの **maxsessions** に 4 を割り当て、自動受付の **maxsessions** に 4 を割り当てるとします。4 人の発信者が同時にボイスメールにアクセスしている場合、自動受付にアクセスする発信者が使用できるポートはありません。ボイスメールに同時にアクセスしている発信者数が 0、1、2、または 3 人の場合のみ、少なくとも 1 つのポートが自動受付用に使用可能になります。

代わりに、3 をボイスメールの **maxsessions** に割り当て、3 を自動受付の **maxsessions** に割り当てるとします。どの時点においても、1 つのアプリケーションがすべてのポートを使い切ることはなくなります。ボイスメールに 3 つのアクティブな通話がある場合、1 人の発信者が自動受付にアクセスできます。その間、2 人目の発信者は自動受付にアクセスできません。

各アプリケーション トリガーにも同様に **maxsessions** パラメータを割り当てる必要があります。トリガーは、アプリケーションのスクリプトをアクティブにする電話番号です。トリガーの **maxsessions** 値には、アプリケーションの **maxsessions** 値より大きい値を設定することはできません。

## 前提条件

デフォルトのボイスメール アプリケーションを設定するには、次の情報が必要です。

- アプリケーション名
- ボイスメールに同時にアクセス可能な最大ユーザ数

## 概略手順

1. **config t**
2. **ccn application full-name**
3. **description "text"**
4. **maxsessions number**
5. **end**
6. **exit**
7. **show ccn scripts**
8. **show ccn application**
9. **copy running-config startup-config**

## 詳細手順

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 1	<b>config t</b>	設定モードを開始します。
	se-10-0-0-0# config t	
ステップ 2	<b>ccn application full-name</b>	設定対象のアプリケーションを指定し、設定モードを開始します。 <i>full-name</i> 引数にはアプリケーションの正式名を使用します。
	se-10-0-0-0(config)# ccn application voicemail	
ステップ 3	<b>description "text"</b>	(オプション) アプリケーションの説明を入力します。テキストは二重引用符で囲みます。
	se-10-0-0-0(config-application)# description "Voice Mail"	
ステップ 4	<b>maxsessions number</b>	このアプリケーションに同時にアクセスできるユーザの数を指定します。この値の割り当てに関するガイドラインについては、P.68の「アプリケーションおよびトリガー間のポートの共有」を参照してください。
	se-10-0-0-0(config-application)# maxsessions 8	
ステップ 5	<b>end</b>	アプリケーション設定モードを終了します。
	se-10-0-0-0(config-application)# end se-10-0-0-0(config)#	
ステップ 6	<b>exit</b>	設定モードを終了します。
	se-10-0-0-0(config)# exit se-10-0-0-0#	

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 7	<code>show ccn scripts</code>  se-10-0-0-0# <code>show ccn scripts</code>	設定されたスクリプトの名前と説明を表示します。
ステップ 8	<code>show ccn application</code>  se-10-0-0-0# <code>show ccn application</code>	設定された各アプリケーションの詳細を表示します。
ステップ 9	<code>copy running-config startup-config</code>  se-10-0-0-0# <code>copy running-config startup-config</code>	コンフィギュレーションの変更部分をスタートアップのコンフィギュレーション ファイルにコピーします。

## 例

次の例は、`show ccn scripts` の出力を示しています。

```
se-10-0-0-0# show ccn scripts

Name:                setmwi.aef
Create Date:         Tue Apr 20 20:22:27 PDT 1993
Last Modified Date: Tue Apr 20 20:22:27 PDT 1993
Length in Bytes:    21990

Name:                voicebrowser.aef
Create Date:         Tue Apr 20 20:22:39 PDT 1993
Last Modified Date: Tue Apr 20 20:22:39 PDT 1993
Length in Bytes:    13409

Name:                aa.aef
Create Date:         Tue Apr 20 20:22:47 PDT 1993
Last Modified Date: Tue Apr 20 20:22:47 PDT 1993
Length in Bytes:    56227
```

次の例は、`show ccn application` の出力を示しています。

```
se-10-0-0-0# show ccn application

Name:                voicemail
Description:         Voice Mail
Script:              voicebrowser.aef
ID number:           1
Enabled:             yes
Maximum number of sessions: 8
logoutUri:           http://localhost/voicemail/vxmlscripts/m
bxLogout.jsp        http://localhost/voicemail/vxmlscripts/login.vxml
uri:                 http://localhost/voicemail/vxmlscripts/login.vxml

se-10-0-0-0#
```

## Administration via Telephone アプリケーションの設定

Administration via Telephone (AvT) アプリケーションは、テレフォニーベースのインターフェイスです。このアプリケーションを使用すると、Cisco Unity Express 管理者は PC またはサウンド編集ソフトウェアを使用せずに、新しいオーディオプロンプトの録音や既存のカスタムオーディオプロンプトの削除を行うことができます。その後、これらのプロンプトは、デフォルトの自動受付の初期プロンプトなど、さまざまな Cisco Unity Express の Automated Attendant (AA; 自動受付) スクリプトで使用できます。Emergency Alternate Greeting (EAG) は、AvT 内のオプションです。これを使用すると、ユーザは特別なプロンプトの録音や修正、使用可能と使用不能の切り換えを行うことで、そのプロンプトを通常のプロンプトの前に再生し、一時的なイベントやメッセージを発信者に知らせることができます。

AvT アプリケーションは、Cisco Unity Express モジュールのインストールで自動的に設定されます。このアプリケーションを使用すると、Telephone User Interface (TUI; 電話ユーザ インターフェイス) で自動受付のプロンプトの録音および管理を行うことができます。

管理者 (Superuser) 特権またはプロンプト管理 (ManagePrompt) 特権を持つユーザだけが AvT にアクセスできます (特権の割り当てについては、[P.113](#) の「グループの追加と変更」を参照してください)。発信者が AvT 番号にダイヤルすると、AvT は発信者の内線番号と PIN を要求して発信者を認証します。発信者が管理者権限を持っていない場合、AvT は発信者の通話を切断します。

AvT のアクセス電話番号を設定するには、[P.80](#) の「アプリケーションの JTAPI トリガーの設定」を参照してください。

## 自動受付アプリケーションの設定と管理

Cisco Unity Express ソフトウェアをシステムにインストールした後、この項で説明されている手順を実行して、Cisco Unity Express に付属する自動受付アプリケーションを設定する必要があります。

### デフォルトの初期プロンプト

ユーザ ディレクトリにあるデフォルトの自動受付のコンポーネントは、**AAWelcome.wav** というオーディオ プロンプト ファイルだけです。これがデフォルトの初期プロンプトです。自動受付が使用するその他のオーディオ プロンプト ファイルはすべて、システム ディレクトリにあり、ユーザがダウンロード、コピー、またはアップロードすることはできません。

デフォルトの初期プロンプトをカスタマイズするには、[P.77](#) の「[デフォルトの自動受付初期プロンプトのカスタマイズ](#)」を参照してください。

### デフォルトの自動受付スクリプト aa.aef

Cisco Unity Express で提供されるデフォルトの自動受付スクリプトには、**aa.aef** という名前が付いています。このファイルはシステム ディレクトリにあり、ユーザがダウンロード、コピー、またはアップロードすることはできません。このデフォルトの自動受付アプリケーションは、「システム スクリプト」または「システム AA」とも呼ばれます。このデフォルトのスクリプトは、内線番号を入力してダイヤルする、ユーザ名のスペルを入力してダイヤルする、オペレータと通話するなどの基本機能をサポートします。他の機能が必要な場合は、カスタマイズされた自動受付スクリプトを作成する必要があります。

Release 2.1 から、**aa.aef** スクリプトで休日のリストおよび営業時間のスケジュールがサポートされるようになりました。通話が自動受付に着信すると、システムは当日が休日であるかどうかを確認します。休日である場合、システムは **AAHolidayPrompt.wav** という名前の休日用のプロンプトを再生します。内容は次のとおりです。「We are closed today.Please call back later」。その後、スクリプトの次の動作が実行されます。

当日が休日でない場合、システムは営業時間内であるかどうかを確認します。営業時間内である場合、システムは **AABusinessOpen.wav** プロンプトを再生します。これは空のファイルです。営業時間外である場合、システムは **AABusinessClosed.wav** プロンプトを再生します。内容は「We are currently closed. Please call back later.」です。

**aa.aef** スクリプト用に設定できるパラメータを次に示します。

- **welcomePrompt** : デフォルトは **AAWelcome.wav** です。
- **operExtn** : デフォルトは **none** です。
- **holidayPrompt** : デフォルトは **AAHolidayPrompt.wav** です。
- **businessOpenPrompt** : デフォルトは **AABusinessOpen.wav** です。
- **businessClosedPrompt** : デフォルトは **AABusinessClosed.wav** です。
- **businessSchedule** : デフォルトは **SystemSchedule** です。

これらのプロンプトのいずれかを変更するには、[P.77](#) の「[自動受付プロンプトの設定](#)」を参照してください。

カスタマイズされたスクリプト ファイルを作成するには、[P.79](#) の「[自動受付スクリプト ファイルの作成](#)」を参照してください。

営業時間のスケジュールを作成するには、[P.96](#) の「[営業時間の設定](#)」を参照してください。

休日のリストを作成するには、[P.102](#) の「[休日リストの設定](#)」を参照してください。



## 単純な自動受付スクリプト aa\_simple.aef

Release 2.1 から、もう 1 つの単純なスクリプト **aa\_simple.aef** が自動受付アプリケーションで利用できるようになりました。このスクリプトは、自動受付アプリケーションと関連付けることができる、もう 1 つのシステム スクリプトです。このスクリプトを削除またはダウンロードすることはできません。

このスクリプトは、**aa.aef** スクリプトと同じ方法でオプション グリーティング、休日および営業時間のスケジュールを確認します。

**aa\_simple.aef** スクリプトは、顧客に対して再生する最初のグリーティングが決定した後、プロンプト (AASPlayExtensions.wav) を「For operator, press 0」というメッセージとともに再生します。このプロンプトは、設定可能なパラメータです。GUI オプションまたは CLI コマンドを使用して、このプロンプトを、自動受付アプリケーションで到達可能なユーザの名前と内線番号が録音されたメッセージファイルに置き換えることができます。たとえば、「For Al, press 10. For Bob, press 20. For the operator, press 0」というプロンプトを再生できます。

発信者はシャープ キー (#) を押さずに内線番号を入力できます。発信者が内線番号を入力すると、スクリプトはその内線番号への転送を試行します。スクリプトは転送前に内線番号を検証しません。

このスクリプトには、別のパラメータ (**extensionLength**) があります。このパラメータでは、Cisco Unity Express システムが使用する内線番号の長さが指定されます。スクリプトが転送に成功するためには、このパラメータが正しく設定されている必要があります。

**aa\_simple.aef** スクリプト用に設定できるパラメータを次に示します。

- **welcomePrompt** : デフォルトは **AAWelcome.wav** です。
- **holidayPrompt** : デフォルトは **AAHolidayPrompt.wav** です。
- **businessOpenPrompt** : デフォルトは **AABusinessOpen.wav** です。
- **businessClosedPrompt** : デフォルトは **AABusinessClosed.wav** です。
- **playExtensionsPrompt** : デフォルトは **AASPlayExtensions.wav** です。
- **extensionLength** : デフォルトは **1** です。
- **businessSchedule** : デフォルトは **SystemSchedule** です。

これらのプロンプトのいずれかを変更するには、[P.77](#) の「[自動受付プロンプトの設定](#)」を参照してください。

カスタマイズされたスクリプト ファイルを作成するには、[P.79](#) の「[自動受付スクリプト ファイルの作成](#)」を参照してください。

営業時間のスケジュールを作成するには、[P.96](#) の「[営業時間の設定](#)」を参照してください。

休日のリストを作成するには、[P.102](#) の「[休日リストの設定](#)」を参照してください。

## その他の自動受付パラメータ

自動受付のアクセス電話番号を設定するには、[P.80](#) の「[アプリケーションの JTAPI トリガーの設定](#)」を参照してください。

EXEC モードと設定モードの両方でコマンドが使用されます。

ユーザ定義のパラメータを設定する手順については、[P.156](#) の「[アプリケーション パラメータの設定](#)」を参照してください。

## 前提条件

自動受付を設定するには、次の情報が必要です。

- 独自の初期プロンプトを使用するには、事前に録音した初期プロンプトを含む .wav ファイルを作成します。このファイルを自動受付スクリプトに配置および保存できるようにするには、このファイルを Cisco Unity Express モジュールにアップロードする必要があります。または、Administration via Telephone (AvT) を使用して、初期プロンプトを録音することもできます。プロンプトの録音に関するガイドラインについては、P.77 の「自動受付グリーティングまたはプロンプト ファイルの録音」を参照してください。プロンプトを Cisco Unity Express にアップロードする手順については、P.78 の「自動受付グリーティングまたはプロンプト ファイルのアップロード」を参照してください。
- アプリケーション名。
- 通話が切断されるまでに自動受付が発信者に対してインストラクションを再生する回数。このカウントは、発信者がメイン メニューから移動してサブメニューのインストラクションを聞き始めたときに開始されます。メイン メニューが 5 回再生された後、発信者が選択を行わなかったり、誤った選択を行ったりした場合は、オペレータに転送されます。
- オペレータの内線番号。発信者がゼロ（「0」）ボタンを押した場合、自動受付はこの内線番号をダイヤルします。
- デフォルトの自動受付初期プロンプトを変更する場合は、カスタマイズされた WAV ファイル名。
- 発信者が自動受付にアクセスするためにダイヤルする必要のある電話番号。多くの場合、この番号は会社の電話番号です。
- 自動受付に同時にアクセスできる最大発信者数。この値の割り当てに関するガイドラインについては、P.68 の「アプリケーションおよびトリガー間のポートの共有」を参照してください。

## 概略手順

1. `config t`
2. `ccn application full-name`
3. `description "text"`
4. `maxsessions number`
5. `parameter "name" "value"`
6. `enabled`
7. `end`
8. `exit`
9. `show ccn scripts`
10. `show ccn application`
11. `copy running-config startup-config`

## 詳細手順

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 1	<code>config t</code>	設定モードを開始します。
ステップ 2	<code>se-10-0-0-0# config t</code>  <code>ccn application fullname</code>  <code>se-10-0-0-0(config)# ccn application AutoAttendant</code>	設定対象のアプリケーションを指定し、設定モードを開始します。 <i>full-name</i> 引数にはアプリケーションの正式名を使用します。
ステップ 3	<code>description "text"</code>  <code>se-10-0-0-0(config-application)# description "Auto Attendant"</code>	(オプション) アプリケーションの説明を入力します。テキストは二重引用符で囲みます。
ステップ 4	<code>maxsessions number</code>  <code>se-10-0-0-0(config-application)# maxsessions 8</code>	このアプリケーションに同時にアクセスできるユーザの数を指定します。この値の割り当てに関するガイドラインについては、 <a href="#">P.68</a> の「 <a href="#">アプリケーションおよびトリガー間のポートの共有</a> 」を参照してください。
ステップ 5	<code>parameter "name" "value"</code>  <code>se-10-0-0-0(config-application)# parameter "operExtn" "1000"</code> <code>se-10-0-0-0(config-application)# parameter "MaxRetry" "3"</code> <code>se-10-0-0-0(config-application)# parameter "WelcomePrompt" "ciscowelcome.wav"</code>	<p>アプリケーションのパラメータを指定します。各パラメータには、二重引用符で囲まれた名前と値が必要です。次のパラメータでは大文字と小文字が区別されます。アプリケーションパラメータの設定に関する詳細については、<a href="#">P.156</a>の「<a href="#">アプリケーションパラメータの設定</a>」を参照してください。</p> <p>自動受付アプリケーションの場合は、次のパラメータがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>“operExtn”</b>：発信者が自動受付オペレータに到達するために「0」を押したとき、システムがダイヤルする内線番号。これは、ユーザによる入力がない場合（タイムアウトの場合）に、通話が転送される内線番号でもあります。</li> <li>• <b>“MaxRetry”</b>：ユーザによる誤ったサブメニューの選択が許容される最大回数。この制限を超えると、アプリケーションは通話を切断します。デフォルトは3です。</li> <li>• <b>“WelcomePrompt”</b>：Cisco Unity Express モジュールにアップロードされたカスタマイズ済みの AA 初期プロンプトを含む WAV ファイル名。詳細については、<a href="#">P.77</a>の「<a href="#">デフォルトの自動受付初期プロンプトのカスタマイズ</a>」を参照してください。</li> </ul> <p>このパラメータを入力しても、WAV ファイルは Cisco Unity Express モジュールにアップロードされません。<a href="#">P.78</a>の「<a href="#">自動受付グリーンティングまたはプロンプトファイルのアップロード</a>」を参照してください。</p>

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 6	<code>enabled</code>  <code>se-10-0-0-0(config-application)# enabled</code>	アプリケーションをシステムにアクセスできるようにします。
ステップ 7	<code>end</code>	アプリケーション設定モードを終了します。
ステップ 8	<code>exit</code>	設定モードを終了します。
ステップ 9	<code>show ccn scripts</code>  <code>se-10-0-0-0# show ccn scripts</code>	設定されたスクリプトの名前と説明を表示します。
ステップ 10	<code>show ccn application</code>  <code>se-10-0-0-0# show ccn application</code>	設定された各アプリケーションの詳細を表示します。
ステップ 11	<code>copy running-config startup-config</code>	コンフィギュレーションの変更部分をスタートアップのコンフィギュレーション ファイルにコピーします。

## 例

次の例は、`show ccn scripts` の出力を示しています。

```
se-10-0-0-0# show ccn scripts

Name:                setmwi.aef
Create Date:         Tue Apr 20 20:22:27 PDT 1993
Last Modified Date:  Tue Apr 20 20:22:27 PDT 1993
Length in Bytes:    21990

Name:                voicebrowser.aef
Create Date:         Tue Apr 20 20:22:39 PDT 1993
Last Modified Date:  Tue Apr 20 20:22:39 PDT 1993
Length in Bytes:    13409

Name:                aa.aef
Create Date:         Tue Apr 20 20:22:47 PDT 1993
Last Modified Date:  Tue Apr 20 20:22:47 PDT 1993
Length in Bytes:    56227

Name:                promptmgmt.aef
Create Date:         Tue Apr 20 20:22:59 PDT 1993
Last Modified Date:  Tue Apr 20 20:22:59 PDT 1993
Length in Bytes:    80781
se-10-0-0-0#
```

次の例は、`show ccn application` の出力を示しています。

```
se-10-0-0-0# show ccn application

Name:                AutoAttendant
Description:         Auto Attendant
Script:              aa.aef
ID number:           2
Enabled:             yes
Maximum number of sessions: 8
MaxRetry:            3
operExtn:            1000
welcomePrompt:      AAWelcome.wav
se-10-0-0-0#
```

## 自動受付プロンプトの設定

Cisco Unity Express は、カスタマイズされたグリーティング ファイルおよびプロンプト ファイルをサポートします。NM は最大 50 個のプロンプトをサポートし、AIM は最大 25 個のプロンプトをサポートします。

プロンプトをカスタマイズするには、次の手順を実行する必要があります。

- [自動受付グリーティングまたはプロンプト ファイルの録音 \(P.77\)](#)
- [デフォルトの自動受付初期プロンプトのカスタマイズ \(P.77\)](#)
- [自動受付グリーティングまたはプロンプト ファイルのアップロード \(P.78\)](#)
- (オプション) [自動受付グリーティングまたはプロンプト ファイルのダウンロード \(P.78\)](#)
- (オプション) [自動受付グリーティングまたはプロンプト ファイルの削除 \(P.78\)](#)

## 自動受付グリーティングまたはプロンプト ファイルの録音

自動受付グリーティングおよびプロンプト ファイルを作成するには、次の 2 つの方法が使用できます。

- G.711 U-law、8 kHz、8 ビット、Mono 形式で .wav ファイルを作成する。ファイルのサイズを 1 MB より大きくすることはできません。1 MB は、約 120 秒のグリーティングに相当します。グリーティングを録音したら、GUI または Cisco Unity Express の CLI コマンド **ccn copy** を使用して、ファイルを Cisco Unity Express システムにコピーします。アップロードの手順については、次の項の「[自動受付グリーティングまたはプロンプト ファイルのアップロード](#)」を参照してください。
- TUI で AvT を使用して、グリーティングまたはプロンプトを録音する。AvT 電話番号をダイヤルし、グリーティングを録音するためのオプションを選択します。録音が終了したら、ファイルを保存します。AvT により、ファイルが Cisco Unity Express に自動的に保存されます。

AvT プロンプト ファイル名の形式は UserPrompt\_DateTime.wav です。たとえば、UserPrompt\_11152003144055.wav などになります。CLI コマンドまたは GUI オプションを使用して、ファイルを PC にダウンロードし、ファイル名を有意な名前に変更してから、Cisco Unity Express にアップロードすることもできます。

AvT を使用すると、他の方法で録音した .wav ファイルより高品質のサウンドが実現されるため、TUI で AvT を使用してグリーティングおよびプロンプトを録音することをお勧めします。

## デフォルトの自動受付初期プロンプトのカスタマイズ

システムに含まれているデフォルトの AA グリーティングの長さは 2 秒で、「Welcome to the AutoAttendant」というプロンプトが再生されます。ご使用のシステム専用のカスタム初期プロンプトを録音し、発信者への応答に使用できます。デフォルトの WAV ファイル名は **AAwelcome.wav** です。WAV ファイルに保存されているデフォルトの初期プロンプトの長さは 2 秒ですが、新しい初期プロンプトは最大 120 秒まで録音できます。初期プロンプトの WAV ファイルは、G.711 U-law 形式で最大 1 MB にすることができます。

カスタム初期プロンプトを作成する場合は、別の WAV ファイル名を使用し、その新しい WAV ファイルを Cisco Unity Express モジュールにアップロードします。デフォルトの **AAwelcome.wav** ファイル名を上書きしないでください。初期プロンプト WAV ファイルのアップロードについては、[P.78](#) の「[自動受付グリーティングまたはプロンプト ファイルのアップロード](#)」を参照してください。



(注)

初期プロンプトの WAV ファイルは割り込み不可です。つまり、録音された初期プロンプトが長いほど、他の内線番号にアクセスする数字を入力できるようになるまで発信者が待つ時間も長くなります。発信者がボイスメール システムに迅速にアクセスできるように、短い初期プロンプトを録音することをお勧めします。

この初期プロンプトに続いて、デフォルトのスキプトがメニュー アナウンスを再生し、メニュー オプションを発信者に示します。これは、システムに付属するデフォルトの自動受付内にある、カスタマイズできないプロンプトです。内線番号を入力してダイヤルするオプションを発信者が使用した場合、どの内線番号であってもシステムは転送を試みます。これには、Cisco Unity Express を使用して定義されていない内線番号も含まれます。Cisco Unity Express で定義されていない内線番号に発信者が転送されないようにするには、Class of Restrictions (COR; クラス オブ レストリクション) をダイヤルピア上に設定するか、カスタム スクリプトを作成して、このオプションを回避します。

## 自動受付グリーティングまたはプロンプト ファイルのアップロード

.wav グリーティングまたはプロンプト ファイルを録音したら、Cisco Unity Express EXEC モードで **ccn copy url** コマンドを使用して、そのファイルをアップロードします。

**ccn copy url source-ip-address prompt prompt-filename**

```
se-10-0-0-0# ccn copy url ftp://10.100.10.123/AAprompt1.wav prompt AAprompt1.wav
se-10-0-0-0# ccn copy url http://www.server.com/AAgreeting.wav prompt AAgreeting.wav
```

このコマンドは、GUI オプション **Voice Mail > Prompts** を使用して **Upload** を選択した場合と同じ処理を実行します。

Cisco Unity Express モジュールで許可されている最大プロンプト数より多くアップロードしようとすると、エラー メッセージが表示されます。



(注) AAWelcome.wav ファイルは、Prompts/user/xx\_YY/ ディレクトリにあります。ここで、xx\_YY は、インストールされている言語パッケージに対応します。その他のシステム プロンプトはすべて、Prompts/system/xx\_YY/ ディレクトリにあります。ccn copy url コマンドを使用して .wav ファイルをアップロードすると、アップロードしたファイルは Prompts/system/xx\_YY/ ディレクトリではなく、Prompts/user/xx\_YY/ ディレクトリに戻されます。

## 自動受付グリーティングまたはプロンプト ファイルのダウンロード

グリーティングおよびプロンプトは、自動受付からコピーして、別のサーバまたは PC に保存できます。

グリーティングまたはプロンプト ファイルをコピーするには、Cisco Unity Express EXEC モードで **ccn copy prompt** コマンドを次のように入力します。

**ccn copy prompt prompt-file-name url destination-ip-address**

```
se-10-0-0-0# ccn copy prompt AAprompt2.wav url ftp://10.100.10.123/AAprompt2.wav
```

## 自動受付グリーティングまたはプロンプト ファイルの削除

自動受付グリーティングまたはプロンプト ファイルを Cisco Unity Express から削除するには、Cisco Unity Express EXEC モードで **ccn delete** コマンドを次のように入力します。

**ccn delete prompt prompt-filename**

```
se-10-0-0-0# ccn delete prompt AAgreeting.wav
```

## 自動受付スクリプトの設定

Cisco Unity Express は、カスタマイズされたスクリプト ファイルをサポートします。NM は最大 8 個のスクリプトをサポートし、AIM は最大 4 個のスクリプトをサポートします。

スクリプトをカスタマイズするには、次の手順を実行する必要があります。

- [自動受付スクリプト ファイルの作成 \(P.79\)](#)
- [自動受付スクリプト ファイルのアップロード \(P.79\)](#)
- (オプション) [自動受付スクリプト ファイルのダウンロード \(P.79\)](#)
- (オプション) [自動受付スクリプト ファイルの削除 \(P.80\)](#)

### 自動受付スクリプト ファイルの作成

自動受付スクリプト ファイルは、スクリプト エディタ プログラムを使用して作成します。スクリプト ファイルを作成するためのガイドラインと手順については、『[Cisco Unity Express Script Editor Guide](#)』を参照してください。

ファイルのサイズを 256 KB より大きくすることはできません。

スクリプトを作成したら、GUI または Cisco Unity Express の **ccn copy** コマンドを使用して、ファイルを Cisco Unity Express システムにコピーします。アップロードの手順については、次の項の「[自動受付スクリプト ファイルのアップロード](#)」を参照してください。

### 自動受付スクリプト ファイルのアップロード

.wav グリーティングまたはプロンプト ファイルを録音したら、Cisco Unity Express EXEC モードで **ccn copy url** コマンドを使用して、そのファイルをアップロードします。

```
ccn copy url source-ip-address script script-filename
```

```
se-10-0-0-0# ccn copy url ftp://10.100.10.123/AVTscript.aef script AVTscript.aef  
se-10-0-0-0# ccn copy url http://www.server.com/AVTscript.aef script AVTscript.aef
```

このコマンドは、GUI オプション **Voice Mail > Scripts** を使用して **Upload** を選択した場合と同じ処理を実行します。

Cisco Unity Express モジュールで許可されている最大スクリプト数より多くアップロードしようとすると、エラー メッセージが表示されます。

### 自動受付スクリプト ファイルのダウンロード

スクリプトは、自動受付からコピーして、別のサーバまたは PC に保存できます。

スクリプト ファイルをコピーするには、Cisco Unity Express EXEC モードで **ccn copy script** コマンドを次のように入力します。

```
ccn copy script prompt-file-name url destination-ip-address
```

```
se-10-0-0-0# ccn copy script AVTscript.aef url ftp://10.100.10.123/AVTscript.aef
```

## 自動受付スクリプト ファイルの削除

自動受付スクリプト ファイルを Cisco Unity Express から削除するには、Cisco Unity Express EXEC モードで **ccn delete** コマンドを次のように入力します。

```
ccn delete script script-filename
```

```
se-10-0-0-0# ccn delete script AVTscript.aef  
Are you sure you want to delete this script? (y/n)
```

## アプリケーションの JTAPI トリガーの設定

ボイスメール、自動受付、および AvT の各アプリケーションを設定したら、特定の信号（トリガー）が呼び出されたときにボイスメール、自動受付、および AvT の各アプリケーションが起動されるように、Cisco Unity Express を設定する必要があります。トリガーは電話番号です。発信者が特定の電話番号をダイヤルすると、Cisco Unity Express がボイスメール、自動受付、または AvT の各アプリケーションを起動します。

アプリケーションのトリガーを複数設定する手順については、P.153 の「[詳細設定](#)」を参照してください。

### 前提条件

JTAPI トリガーを設定するには、次の情報が必要です。

- アプリケーションを起動する電話番号。この番号は、ボイスメールおよび自動受付の両方の番号とは異なる必要があります。
- タイムアウトして通話を切断するまでシステムが発信者の応答を待つ秒単位の時間数。
- プロンプトに使用する言語。



(注) Release 2.1 では、4つの言語（ヨーロッパのフランス語、ドイツ語、ヨーロッパのスペイン語、またはアメリカ英語）のみが使用できます。

- トリガーに同時にアクセスできる最大発信者数。この値の割り当てに関するガイドラインについては、P.68 の「[アプリケーションおよびトリガー間のポートの共有](#)」を参照してください。

### 概略手順

EXEC モードで手順を開始します。

1. **config t**
2. **ccn trigger jtapi phonenumber number**
3. **application string**
4. **enabled**
5. **maxsessions number**
6. **end**
7. **exit**



## 8. show ccn trigger

## 9. copy running-config startup-config



(注) システムをリロードして、これらの CLI コマンドで指定した変更内容をアクティブにします。

## 詳細手順

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 1	<code>config t</code>	設定モードを開始します。
ステップ 2	<code>se-10-0-0-0# config t</code>  <code>ccn trigger jtapi phonenumber number</code>  <code>se-10-0-0-0(config)# ccn trigger jtapi phonenumber 6700</code>	トリガーとして機能する電話番号を指定します。この電話番号により、Cisco Unity Express 上のアプリケーションが起動し、トリガー設定モードが開始されます。 <i>number</i> 値は、Cisco CallManager に設定された JTAPI ルートポイントと一致する必要があります。
ステップ 3	<code>application string</code>  <code>se-10-0-0-0(config-trigger)# application voicemail</code> <code>se-10-0-0-0(config-trigger)# application autoattendant</code> <code>se-10-0-0-0(config-trigger)# application promptmanagement</code>	トリガーが入力されたときに起動するアプリケーションの名前を指定します。
ステップ 4	<code>enabled</code>  <code>se-10-0-0-0(config-trigger)# enabled</code>	トリガーを有効にします。
ステップ 5	<code>maxsessions number</code>  <code>se-10-0-0-0(config-trigger)# maxsessions 3</code>	アプリケーションが同時に処理できる最大発信者数を指定します。この値の割り当てに関するガイドラインについては、P.68 の「アプリケーションおよびトリガー間のポートの共有」を参照してください。
ステップ 6	<code>end</code>  <code>se-10-0-0-0(config-trigger)# end</code>	トリガー設定モードを終了します。
ステップ 7	<code>exit</code>  <code>se-10-0-0-0(config)# exit</code>	設定モードを終了します。
ステップ 8	<code>show ccn trigger</code>  <code>se-10-0-0-0# show ccn trigger</code>	設定されたトリガーすべてのパラメータ値を表示します。
ステップ 9	<code>copy running-config startup-config</code>  <code>se-10-0-0-0# copy running-config startup-config</code>	コンフィギュレーションの変更部分をスタートアップのコンフィギュレーション ファイルにコピーします。



(注) システムをリロードして、これらの CLI コマンドで指定した変更内容をアクティブにします。

## 例

次の設定例では、2つのトリガー（ボイスメールアプリケーション用と自動受付アプリケーション用）が設定されています。

```

se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# ccn trigger jtapi phonenumber 6500
se-10-0-0-0(config-trigger)# application voicemail
se-10-0-0-0(config-trigger)# maxsessions 4
se-10-0-0-0(config-trigger)# enabled
se-10-0-0-0(config-trigger)# end
se-10-0-0-0(config)#
se-10-0-0-0(config)# ccn trigger jtapi phonenumber 6700
se-10-0-0-0(config-trigger)# application autoattendant
se-10-0-0-0(config-trigger)# maxsessions 8
se-10-0-0-0(config-trigger)# enabled
se-10-0-0-0(config-trigger)# end
se-10-0-0-0(config)# exit
se-10-0-0-0#

```

**show ccn trigger** コマンドの出力は、次の例のようになります。

```

se-10-0-0-0# show ccn trigger

Name:                6500
Type:                JTAPI
Application:         voicemail
Locale:              en_US
Idle Timeout:        600
Enabled:             yes
Maximum number of sessions: 4

Name:                6700
Type:                JTAPI
Application:         autoattendant
Locale:              en_US
Idle Timeout:        600
Enabled:             yes
Maximum number of sessions: 8
se-10-0-0-0#

```

## JTAPI アプリケーション トリガーの削除

JTAPI アプリケーション トリガーを削除するには、この手順を実行します。トリガーを削除しても、アプリケーションは削除されません。ただし、システムがアプリケーションを起動するには、少なくとも1つのトリガーが必要です。

### 前提条件

トリガーを削除するには、トリガーの番号が必要です。

### 概略手順

1. `show ccn trigger`
2. `config t`
3. `no ccn trigger jtapi phonenumber number`
4. `exit`
5. `show ccn trigger`
6. `copy running-config startup-config`

### 詳細手順

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 1	<code>show ccn trigger</code>  se-10-0-0-0# show ccn trigger	現在設定されているトリガーを表示します。削除する電話番号を見つけます。その電話番号が正しいアプリケーションと関連付けられていることを確認します。
ステップ 2	<code>config t</code>  se-10-0-0-0# config t	設定モードを開始します。
ステップ 3	<code>no ccn trigger jtapi phonenumber number</code>  se-10-0-0-0(config)# no ccn trigger jtapi phonenumber 5000	トリガーの番号を削除します。
ステップ 4	<code>exit</code>  se-10-0-0-0(config)# exit	設定モードを終了します。
ステップ 5	<code>show ccn trigger</code>  se-10-0-0-0# show ccn trigger	設定されているトリガーを表示します。
ステップ 6	<code>copy running-config startup-config</code>  se-10-0-0-0# copy running-config startup-config	コンフィギュレーションの変更部分をスタートアップのコンフィギュレーション ファイルにコピーします。

## 例

**show ccn trigger** の出力は、次の例のようになります。

```
se-10-0-0-0# show ccn trigger

Name:                6500
Type:                JTAPI
Application:         voicemail
Locale:              en_US
Idle Timeout:        600
Enabled:              yes
Maximum number of sessions: 4

Name:                6700
Type:                JTAPI
Application:         autoattendant
Locale:              en_US
Idle Timeout:        600
Enabled:              yes
Maximum number of sessions: 8
se-10-0-0-0#
```

次の設定では、ボイスメールアプリケーションからトリガーが削除されます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# no ccn trigger jtapi phonenum 6500
se-10-0-0-0(config)# exit
```

**show ccn trigger** の出力は、次の例のようになります。

```
se-10-0-0-0# show ccn trigger

Name:                6700
Type:                JTAPI
Application:         autoattendant
Locale:              en_US
Idle Timeout:        600
Enabled:              yes
Maximum number of sessions: 8
se-10-0-0-0#
```

## アプリケーションの削除

保持する必要のないアプリケーションを設定した場合は、この手順を実行してアプリケーションとそのアプリケーションに関連付けられているすべてのトリガーを削除します。すべてのトリガーを削除しないと、いずれかのトリガーが呼び出されたとき、アプリケーションが起動されます。

アプリケーションとトリガーを削除しても、アプリケーションと関連付けられているスクリプトはサーバにインストールされたままですが、Cisco Unity Express はそのスクリプトを使用しなくなります。このアプリケーションを使用できるようにするには、再設定を行います。

Cisco Unity Express に付属しているデフォルトのボイスメール、自動受付、およびグリーティング管理システムの各アプリケーションは削除できません。

### 前提条件

アプリケーションを削除するには、次の情報が必要です。

- アプリケーション名
- アプリケーションと関連付けられているすべてのトリガーの番号

### 概略手順

1. `show ccn application`
2. `show ccn trigger`
3. `config t`
4. `no ccn trigger jtapi phonenumber number`
5. `no ccn application name`
6. `exit`
7. `show ccn application`
8. `show ccn trigger`
9. `copy running-config startup-config`

### 詳細手順

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 1	<code>show ccn application</code>  se-10-0-0-0# <code>show ccn application</code>	現在設定されているアプリケーションを表示します。削除するアプリケーションの名前を見つけます。
ステップ 2	<code>show ccn trigger</code>  se-10-0-0-0# <code>show ccn trigger</code>	現在設定されているトリガーを表示します。削除するアプリケーションに関連付けられている電話番号を見つけます。
ステップ 3	<code>config t</code>  se-10-0-0-0# <code>config t</code>	設定モードを開始します。

## ■ アプリケーションの削除

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 4	<pre>no ccn trigger jtapi phonenumber number</pre> <pre>se-10-0-0-0(config)# no ccn trigger jtapi phonenumber 6700</pre>	このアプリケーションに関連付けられているトリガーを削除します。アプリケーションに関連付けられているトリガーごとに、このコマンドを繰り返します。
ステップ 5	<pre>no ccn application name</pre> <pre>se-10-0-0-0(config)# no ccn application myapplication</pre>	指定した <i>name</i> のアプリケーションを削除します。
ステップ 6	<pre>exit</pre> <pre>se-10-0-0-0(config)# exit</pre>	設定モードを終了します。
ステップ 7	<pre>show ccn application</pre> <pre>se-10-0-0-0# show ccn application</pre>	現在設定されているアプリケーションを表示します。削除したアプリケーションが表示されていないことを確認します。
ステップ 8	<pre>show ccn trigger</pre> <pre>se-10-0-0-0# show ccn trigger</pre>	設定済みの各アプリケーションのトリガーを表示します。
ステップ 9	<pre>copy running-config startup-config</pre> <pre>se-10-0-0-0# copy running-config startup-config</pre>	コンフィギュレーションの変更部分をスタートアップのコンフィギュレーション ファイルにコピーします。

## 例

**show ccn application** コマンドおよび **show ccn trigger** コマンドの出力例を次に示します。

```
se-10-0-0-0# show ccn application

Name:                    voicemail
Description:             voicemail
Script:                  voicebrowser.aef
ID number:               1
Enabled:                 yes
Maximum number of sessions: 8
logoutUri:               http://localhost/voicemail/vxmlscripts/m
bxLogout.jsp            uri:
uri:                     http://localhost/voicemail/vxmlscripts/1
ogin.vxml

Name:                    autoattendant
Description:             autoattendant
Script:                  aa.aef
ID number:               2
Enabled:                 yes
Maximum number of sessions: 8
MaxRetry:                3
operExtn:                0
welcomePrompt:          AAWelcome.wav

Name:                    myapplication
Description:             My AA application
Script:                  myscript.aef
ID number:               3
Enabled:                 yes
Maximum number of sessions: 8
MaxRetry:                3
operExtn:                0
welcomePrompt:          NewAAWelcome.wav
se-10-0-0-0#

se-10-0-0-0# show ccn trigger

Name:                    6700
Type:                    JTAPI
Application:             voicemail
Locale:                  systemDefault
Idle Timeout:            5000
Enabled:                 yes
Maximum number of sessions: 4

Name:                    6500
Type:                    JTAPI
Application:             autoattendant
Locale:                  systemDefault
Idle Timeout:            5000
Enabled:                 yes
Maximum number of sessions: 8

Name:                    7200
Type:                    JTAPI
Application:             myapplication
Locale:                  systemDefault
Idle Timeout:            5000
Enabled:                 yes
Maximum number of sessions: 8
se-10-0-0-0#
```

次の設定では、myapplication アプリケーションとそのトリガーが削除されます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# no ccn trigger jtapi phonenumber 7200
se-10-0-0-0(config)# no ccn application myapplication
se-10-0-0-0(config)# exit
```

show コマンドの出力は、次のようになります。

```
se-10-0-0-0# show ccn application

Name:                voicemail
Description:         voicemail
Script:              voicebrowser.aef
ID number:           1
Enabled:             yes
Maximum number of sessions: 8
logoutUri:           http://localhost/voicemail/vxmlscripts/m
                    bxLogout.jsp
uri:                 http://localhost/voicemail/vxmlscripts/1
                    ogin.vxml

Name:                autoattendant
Description:         autoattendant
Script:              aa.aef
ID number:           2
Enabled:             yes
Maximum number of sessions: 8
MaxRetry:            3
operExtn:            0
welcomePrompt:      AAWelcome.wav
se-10-0-0-0#

se-10-0-0-0# show ccn trigger

Name:                6700
Type:                JTAPI
Application:         voicemail
Locale:              systemDefault
Idle Timeout:        5000
Enabled:             yes
Maximum number of sessions: 4

Name:                6500
Type:                JTAPI
Application:         autoattendant
Locale:              systemDefault
Idle Timeout:        5000
Enabled:             yes
Maximum number of sessions: 8
se-10-0-0-0#
```



## システム全体のメールボックスのデフォルト値の設定

システム全体に適用される次のパラメータは、すべての新しいボイスメールボックス用に設定可能です。これらの値は、新しいボイスメールボックスに自動的に割り当てられます。これらの値のいくつかには、工場出荷時のデフォルト値が設定されています。ご使用のシステムの最大値については、[P.16](#)の「ソフトウェア ライセンスおよび工場で設定される制限」を参照してください。

- 容量：システム内のすべてのメールボックスに許可されているストレージ時間の合計（単位：時間）。工場出荷時のデフォルトは、システムに許容される最大ストレージです。
- 有効期限：メッセージがメールボックスに保持される日数。ユーザがボイスメールボックスにログインすると、期限切れのすべてのメッセージを示すメッセージが再生されます。ユーザは各メッセージを保存、スキップ、または削除できます。工場出荷時のデフォルト値は 30 日です。
- 言語：ボイスメール プロンプトに使用される言語。Release 2.1 では、アメリカ英語、ヨーロッパのフランス語、ドイツ語、ヨーロッパのスペイン語が使用可能です。デフォルト値は、インストールした言語パッケージによって決定されます。CLI コマンドを使用して変更することはできません。
- メールボックス サイズ：メールボックス内のボイス メッセージのストレージの最大秒数。工場出荷時のデフォルト値は、最大ストレージ容量をメールボックスの最大数（個人用および共用）で割ることによって決定されます。
- メッセージ長：メールボックス内の保存メッセージ 1 件あたりの最大秒数。工場出荷時のデフォルトは 60 秒です。
- 録音時間：ユーザの録音メールボックス グリーティングの最大時間。
- オペレータ内線番号：ボイスメール オペレータの内線番号。



### 注意

ボイスメールの電話番号とボイスメール オペレータの電話番号は、同じ番号にできません。これらの番号が同じである場合、ボイスメール システム内でオペレータを呼び出そうとしたユーザは、再度ボイスメール システムに転送されます。また、オペレータのボタンを押した外部からの発信者もボイスメール システムに接続されます。

特定のメールボックスのメールボックス サイズ、メッセージ長、および有効期限に別の値を設定する手順については、[P.117](#)の「ボイスメールボックスの作成と変更」を参照してください。

### 概略手順

1. `config t`
2. `voicemail capacity time minutes`
3. `voicemail defaults {expiration days | language | mailboxsize mailboxsize-seconds | messagesize messagesize-seconds}`
4. `voicemail operator telephone tel-number`
5. `voicemail recording time minutes`
6. `exit`
7. `copy running-config startup-config`

## 詳細手順

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 1	<code>config t</code>	設定モードを開始します。
	<code>se-10-0-0-0# config t</code>	
ステップ 2	<code>voicemail capacity time minutes</code>	システム全体に適用される最大記憶域として、すべての設定済みメールボックスに許可する <code>time</code> の値を分単位で設定します。
	<code>se-10-0-0-0(config)# voicemail capacity time 3000</code>	
ステップ 3	<code>voicemail default {expiration days   language xx_YY   mailboxsize mailboxsize-seconds   messagesize messagesize-seconds}</code>	新しい個別送信メールボックスまたは共有メールボックスのデフォルト値を割り当てます。これらの値は後で、特定のメールボックス用に別の値に変更できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>expiration days</b> : メッセージがメールボックスに保存されてからボイスメール システムによって削除されるまでの日数を設定します。</li> <li>• <b>language</b> : ローカルの Cisco Unity Express システムのボイスメール プロンプトで使用するデフォルトの言語を指定します。Release 2.1 は、システムにインストールされた言語を一度に 1 つサポートしません。このコマンドの値は、インストールした言語パッケージによって決定され、変更することはできません。このコマンドで有効な値は、<b>en_EN</b> (アメリカ英語)、<b>de_DE</b> (ドイツ語)、<b>fr_FR</b> (ヨーロッパのフランス語)、および <b>es_ES</b> (ヨーロッパのスペイン語) です。</li> <li>• <b>mailboxsize mailboxsize-seconds</b> : メールボックスに保存されるメッセージの最大秒数を設定します。</li> <li>• <b>messagesize messagesize-seconds</b> : メールボックスに保存される発信者のメッセージの最大秒数を設定します。</li> </ul>
	<code>se-10-0-0-0(config)# voicemail default expiration 30</code> <code>se-10-0-0-0(config)# voicemail default mailboxsize 300</code> <code>se-10-0-0-0(config)# voicemail default messagesize 120</code>	
ステップ 4	<code>voicemail operator telephone tel-number</code>	<code>tel-number</code> の値をボイスメール オペレータの内線番号として割り当てます。メールボックスの所有者は、ボイスメール システムでボイスメール オペレータにアクセスする際、この内線番号にダイヤルします。この内線番号をグループに割り当てないでください。この内線番号は、自動受付オペレータの内線番号と同じである必要はありません。
	<code>se-10-0-0-0(config)# voicemail operator telephone 9000</code>	
ステップ 5	<code>voicemail recording time minutes</code>	<code>time</code> の値 (分) を、ボイスメール システムのすべてのグリーティングまたはメッセージの最大録音時間として割り当てます。
	<code>se-10-0-0-0(config)# voicemail recording time 10</code>	
ステップ 6	<code>exit</code>	設定モードを終了します。
	<code>se-10-0-0-0(config)# exit</code>	

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 7	<pre>copy running-config startup-config</pre> <pre>se-10-0-0-0# copy running-config startup-config</pre>	コンフィギュレーションの変更部分をスタートアップのコンフィギュレーション ファイルにコピーします。

## AIM フラッシュ メモリ の使用状況の確認

Cisco Unity Express は、AIM フラッシュ メモリ の使用状況と消費を追跡してログに記録します。トレース データはモジュールに保存されます。このデータを表示するには、Cisco Unity Express EXEC モードで **show interface ide 0** コマンドを使用します。

### show interface ide 0

出力例を次に示します。

```
se-10-0-0-0# show interface ide 0

IDE hd0 is up, line protocol is up
  3496 reads, 46828544 bytes
  0 read errors
  9409 write, 137857024 bytes
  0 write errors
  0.09933333333333333% worn
```

フラッシュ メモリ のログ ファイルおよびトレース ファイルを確認するには、Cisco Unity Express EXEC モードで **log trace** コマンドを使用します。

### log trace

デフォルトでは、フラッシュ メモリ へのログとトレースはオフになっています。 **log trace** コマンドを実行すると、ただちにログ機能とトレース機能が起動します。

このコマンドにより、**atrace.log** ファイルと **messages.log** ファイルが表示されます。各ファイルは 10 MB の固定長で、この長さに達すると、トレースまたはログは自動的に停止します。古いファイルは新しいファイルで上書きされます。

## システムの言語の設定

このリリースでは、次の言語で TUI プロンプトおよびシステム メッセージが使用可能です。

- アメリカ英語
- ヨーロッパのフランス語
- ドイツ語
- ヨーロッパのスペイン語

CLI コマンドおよび GUI 画面は、アメリカ英語でのみ使用可能です。

ご注文時に、いずれか 1 つの言語がシステムの言語として選択されています。この選択はデフォルトのシステムの言語であり、変更することはできません。今後の Cisco Unity Express リリースでは、システムで複数の言語が同時にサポートされる予定です。

## パスワードおよび PIN のパラメータの設定

Cisco Unity Express は、パスワードおよび Personal Identification Number (PIN; 個人識別番号) のパラメータの設定をサポートします。これについて次の項で説明します。

- [パスワードおよび PIN の長さとお有効期限の設定 \(P.92\)](#)
- [パスワードおよび PIN に対するシステムのデフォルト値の設定 \(P.94\)](#)
- [パスワードおよび PIN のシステム設定の表示 \(P.95\)](#)

### パスワードおよび PIN の長さとお有効期限の設定

Cisco Unity Express は、パスワードおよび PIN について、次の 2 つの属性の設定をサポートします。

- **パスワードおよび PIN の最小長**  
 拡張セキュリティ手順をサポートするため、Cisco Unity Express では、パスワードおよび PIN の長さが設定可能になっています。管理者は、この値の長さを 3 文字以上の英数字として設定できます。すべてのユーザがそれ以上の文字数のパスワードと PIN を持つように、この値がシステム全体に適用されます。この長さを設定するには、GUI の **Defaults > User** オプションを使用するか、次に説明する手順を実行します。  
 パスワードの長さは、PIN の長さと同じにする必要はありません。  
 デフォルトの長さは、英数字 3 文字です。パスワードの最大長は、英数字 32 文字です。PIN の最大長は、英数字 16 文字です。
- **パスワードおよび PIN の最長有効期限**  
 Cisco Unity Express では、管理者はパスワードおよび PIN の有効期限をシステム全体ベースで設定できます。有効期限は、パスワードおよび PIN が有効な時間（日数）です。この時間に達したら、ユーザは新しいパスワードまたは PIN を入力する必要があります。  
 このオプションが設定されていない場合、パスワードおよび PIN は無期限に有効です。  
 この時間を設定するには、GUI の **Defaults > User** オプションを使用するか、次に説明する手順を実行します。  
 パスワードの有効期限は、PIN の有効期限と同じにする必要はありません。  
 最短有効期限は 3 日です。最大有効期限は 365 日です。

### 前提条件

パスワードおよび PIN の長さとお有効期限を設定するには、次の情報が必要です。

- パスワードの長さとお有効期限
- PIN の長さとお有効期限

### 概略手順

- `config t`
- `security password length min password-length`
- `security pin length min pin-length`
- `security password expiry days password-days`
- `security pin expiry days pin-days`
- `exit`

## 詳細手順

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 1	<code>config t</code>  <code>se-10-0-0-0# config t</code> <code>se-10-0-0-0(config)#</code>	設定モードを開始します。
ステップ 2	<code>security password length min password-length</code>  <code>se-10-0-0-0(config)# security password length min 5</code>	すべてのユーザのパスワードの長さを指定します。デフォルトの最小値は 3、最大値は 32 です。
ステップ 3	<code>security pin length min pin-length</code>  <code>se-10-0-0-0(config)# security pin length min 4</code>	すべてのユーザの PIN の最小長を指定します。デフォルトの値は 3、最大値は 16 です。
ステップ 4	<code>security password expiry days password-days</code>  <code>se-10-0-0-0(config)# security password expiry days 60</code>	ユーザのパスワードの最大有効日数を指定します。有効な値の範囲は 3 ~ 365 です。  この値が設定されていない場合、パスワードは無期限に有効です。
ステップ 5	<code>security pin expiry days pin-days</code>  <code>se-10-0-0-0(config)# security pin expiry days 45</code>	ユーザの PIN の最大有効日数を指定します。有効な値の範囲は 3 ~ 365 です。  この値が設定されていない場合、PIN は無期限に有効です。
ステップ 6	<code>exit</code>  <code>se-10-0-0-0(config)# exit</code> <code>se-10-0-0-0#</code>	設定モードを終了します。

## 例

次の例では、パスワードの長さが 6 文字、PIN の長さが 5 文字、パスワードの有効期限が 60 日、PIN の有効期限が 45 日に設定されています。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# security password length min 6
se-10-0-0-0(config)# security pin length min 5
se-10-0-0-0(config)# security password expiry days 60
se-10-0-0-0(config)# security pin expiry days 45
se-10-0-0-0(config)# exit
```

## パスワードおよび PIN に対するシステムのデフォルト値の設定

パスワードおよび PIN の値をシステムのデフォルトにリセットするコマンドは、数種類用意されています。

### パスワードの長さのリセット

次の Cisco Unity Express 設定モード コマンドは、すべてのユーザのパスワードの長さをシステムのデフォルト値にリセットします。デフォルト値は 3 文字です。

#### **no security password length min**

次の例では、パスワードの長さがリセットされます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# no security password length min
se-10-0-0-0(config)# end
```

### PIN の長さのリセット

次の Cisco Unity Express 設定モード コマンドは、すべてのユーザの PIN の長さをシステムのデフォルト値にリセットします。デフォルト値は 3 文字です。

#### **no security pin length min**

次の例では、PIN の長さがリセットされます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0# no security pin length min
se-10-0-0-0(config)# end
```

### パスワードの有効期限のリセット

次の Cisco Unity Express 設定モード コマンドは、すべてのユーザのパスワードの有効期限をシステムのデフォルト値にリセットします。この場合、パスワードは無期限に有効となります。

#### **no security password expiry days**

次の例では、パスワードの有効期限がリセットされます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# no security password expiry days
se-10-0-0-0(config)# end
```

### PIN の有効期限のリセット

次の Cisco Unity Express 設定モード コマンドは、すべてのユーザの PIN の有効期限をシステムのデフォルト値にリセットします。この場合、PIN は無期限に有効となります。

#### **no security pin expiry days**

次の例では、PIN の有効期限がリセットされます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# no security pin expiry days
se-10-0-0-0(config)# end
```

## パスワードおよび PIN のシステム設定の表示

パスワードおよび PIN の設定を表示するには、次の Cisco Unity Express EXEC モードのコマンドを使用します。

### **show security detail**

このコマンドの出力は、次のようになります。

```
se-10-0-0-0# show security detail
```

```
Password Expires:           true
Password Age:               60 days
Password Length (min):     5
Password Length (max):     32
PIN Expires:                true
PIN Age:                    45 days
PIN Length (min):          4
PIN Length (max):          16
```

次の例は、パスワードの有効期限と PIN の長さがシステムのデフォルト値にリセットされた場合の値を示しています。

```
se-10-0-0-0# show security detail
```

```
Password Expires:           false
Password Length (min):     3
Password Length (max):     32
PIN Expires:                false
PIN Age:                    45 days
PIN Length (min):          3
PIN Length (max):          16
```

## 営業時間の設定

Cisco Unity Express では、営業時間外に発信者に対してカスタマイズ可能なグリーティングが自動受付 (AA) によって再生されるように、営業時間を設定できます。次の各項では、設定のプロセスを説明します。

- [営業時間のスケジュールの設定 \(P.96\)](#)
- [営業時間のスケジュールの表示 \(P.98\)](#)
- [ビジネス スケジュールの変更 \(P.100\)](#)
- [ビジネス スケジュールの削除 \(P.101\)](#)

## 営業時間のスケジュールの設定

システム管理者は、次のプロパティで営業時間のスケジュールを設定できます。

- Cisco Unity Express Release 2.1 は、最大 4 つのビジネス スケジュールをサポートします。
- 1 日の 24 時間は 30 分のタイム スロットに分割されます。会社の営業時間および時間外のタイム スロットを指定します。
- システムのデフォルトは、毎日 24 時間「営業時間」です。
- 営業時間のスケジュールを設定するには、グラフィカル ユーザ インターフェイス (GUI) の **Voice Mail > Business Hours Settings** オプションを使用するか、この項で説明されているコマンドライン インターフェイス (CLI) コマンドを使用します。
- あるビジネス スケジュールを別のスケジュールにコピーするには、GUI を使用します。コピーしたスケジュールは、修正することができます。

Cisco Unity Express システムには、「SystemSchedule」というデフォルトのスケジュールが 1 つ付属しています。このスケジュールでは、営業時間が 1 日 24 時間、週 7 日間となっています。このスケジュールを修正または削除するには、GUI の **Voice Mail > Business Hours Settings** オプションを使用するか、CLI コマンドを使用します。複数のスケジュールを作成した場合は、GUI または CLI コマンドを使用して、必要なスケジュールを AA に関連付けます (新しいスケジュールを有効にするためにシステムを再起動する必要はありません)。

発信者が AA に到達すると、AA では初期プロンプトを再生し、当日が休日かどうかを確認します。休日である場合、AA は休日用のグリーティングを発信者に対して再生し、営業時間のスケジュールの確認を行いません。

当日が休日でない場合、システムは営業時間内であるかどうかを確認します。営業時間内である場合、営業時間内用のプロンプトが再生されます。初期状態の AA では、このプロンプト (AABusinessOpen.wav) には何も録音されていません。営業時間外である場合、営業時間外用のプロンプトが再生されます。初期状態の AA では、このプロンプト (AABusinessClosed.wav) の内容は「We are currently closed. Please call back later.」です。

より有意なメッセージを録音することで、これら 2 つのプロンプトをカスタマイズできます。これらのプロンプトは、G.711 U-law、8 kHz、8 ビット、Mono 形式の .wav ファイルである必要があります。カスタム プロンプトをアップロードするには、GUI の **Voice Mail > Prompts** オプションを使用するか、CLI コマンドを使用します。または、Administration via Telephone (AvT) システムを使用して、これらのプロンプトを録音することもできます。これらのカスタム プロンプトをアップロードまたは録音したら、GUI の **Voice Mail > Auto Attendants** オプションを使用するか、CLI コマンドを使用して、新しいプロンプトを AA に関連付けます。新しいプロンプトは、設定されるとすぐに有効になります。システムを再起動する必要はありません。



## 前提条件

営業時間のスケジュールを設定するには、次の情報が必要です。

- スケジュール名  
この名前の最大長は英数字 31 文字です。大文字の A ~ Z、小文字の a ~ z、数字の 0 ~ 9、下線 ( \_ )、およびダッシュ ( - ) を使用できます。名前の最初の文字は英字である必要があります。  
この名前のスケジュールが存在しない場合、システムはそのスケジュールを作成します。スケジュールがすでに存在する場合、行った変更がそのスケジュールに反映されません。最大数のスケジュールが存在する場合、もう 1 つ作成しようとする、エラーメッセージが表示されます。
- 曜日
- 営業時間および時間外の開始時刻と終了時刻  
時間には 24 時間制の形式を使用します。分の有効な値は 00 ~ 30 です。  
新しいスケジュールの場合は、時間外を指定します。新しく作成されたスケジュールは、デフォルトで 1 日 24 時間が営業時間になっているため、時間外でない時間帯は営業時間となります。

## 概略手順

1. `config t`
2. `calendar biz-schedule schedule-name`
3. `closed day day-of-week from hh:mm to hh:mm`
4. `open day day-of-week from hh:mm to hh:mm`
5. `end`
6. `exit`

## 詳細手順

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 1	<code>config t</code>  se-10-0-0-0# config t se-10-0-0-0(config)#	設定モードを開始します。
ステップ 2	<code>calendar biz-schedule schedule-name</code>  se-10-0-0-0(config)# calendar biz-schedule normal_hours	営業時間のスケジュールの名前を指定し、営業設定モードを開始します。名前は、単語 1 つである必要があります。  この名前のスケジュールが存在しない場合、システムはそのスケジュールを作成します。スケジュールがすでに存在する場合、行った変更がそのスケジュールに反映されません。最大数のスケジュールが存在する場合、エラーメッセージが表示されます。
ステップ 3	<code>closed day day-of-week from hh:mm to hh:mm</code>  se-10-0-0-0(config-business)# closed day 2 from 00:00 to 08:30 se-10-0-0-0(config-business)# closed day 2 from 17:30 to 24:00	曜日およびその曜日の時間外の開始時刻と終了時刻を入力します。 <code>day-of-week</code> の有効な値は 1 ~ 7 で、1 は日曜日、2 は月曜日、3 は火曜日、4 は水曜日、5 は木曜日、6 は金曜日、7 は土曜日を表します。 <code>hh</code> には 24 時間制の形式を使用します。 <code>mm</code> の有効な値は 00 ~ 30 です。

	コマンドまたは操作	目的
ステップ 4	<pre>open day day-of-week from hh:mm to hh:mm  se-10-0-0-0(config-business)# open day 2 from 08:30 to 17:30</pre>	曜日、およびその曜日の営業時間の開始時刻と終了時刻を入力します。 <i>day-of-week</i> の有効な値は 1 ~ 7 で、1 が日曜日を表します。 <i>hh</i> には 24 時間制の形式を使用します。 <i>mm</i> の有効な値は 00 ~ 30 です。
ステップ 5	営業時間のスケジュールが必要な曜日ごとに、ステップ 3 と 4 を繰り返します。	—
ステップ 6	<pre>end  se-10-0-0-0(config-business)# end se-10-0-0-0(config)#</pre>	営業設定モードを終了します。
ステップ 7	<pre>exit  se-10-0-0-0(config)# exit se-10-0-0-0#</pre>	設定モードを終了します。

## 例

次の例では、新しいビジネス スケジュールを設定しています。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# calendar biz-schedule normal
Adding new schedule
se-10-0-0-0(config-business)# closed day 1 from 00:00 to 24:00
se-10-0-0-0(config-business)# closed day 2 from 00:00 to 08:30
se-10-0-0-0(config-business)# closed day 2 from 17:30 to 24:00
se-10-0-0-0(config-business)# closed day 3 from 00:00 to 08:30
se-10-0-0-0(config-business)# closed day 3 from 17:30 to 24:00
se-10-0-0-0(config-business)# closed day 4 from 00:00 to 08:30
se-10-0-0-0(config-business)# closed day 4 from 17:30 to 24:00
se-10-0-0-0(config-business)# closed day 5 from 00:00 to 08:30
se-10-0-0-0(config-business)# closed day 5 from 20:00 to 24:00
se-10-0-0-0(config-business)# closed day 6 from 00:00 to 08:30
se-10-0-0-0(config-business)# closed day 6 from 18:00 to 24:00
se-10-0-0-0(config-business)# closed day 7 from 00:00 to 09:00
se-10-0-0-0(config-business)# closed day 7 from 13:00 to 24:00
se-10-0-0-0(config-business)# end
se-10-0-0-0(config)# exit
```

## 営業時間のスケジュールの表示

営業時間のスケジュールを表示する CLI コマンドは数種類あります。これらのコマンドは、Cisco Unity Express EXEC モードで使用します。

### 特定のスケジュールの表示

次のコマンドは、特定のビジネス スケジュールを表示します。

```
show calendar biz-schedule schedule-name
```

ここで、*schedule-name* は、スケジュールの名前です。このコマンドは、曜日ごとの営業時間を表示します。このコマンドの出力は、たとえば次のように表示されます。

```
se-10-0-0-0# show calendar biz-schedule normal
```

```
*****
Schedule: normal
Day          Open Hours
-----
Sunday       None
Monday       08:30 to 17:30
Tuesday      08:30 to 17:30
Wednesday   08:30 to 17:30
Thursday     08:30 to 20:00
Friday       08:30 to 18:00
Saturday     09:00 to 13:00
```

## すべてのビジネス スケジュールの表示

次のコマンドは、システム内のすべての設定済みビジネス スケジュールを表示します。

```
show calendar biz-schedule all
```

このコマンドは、スケジュールごと、曜日ごとに営業時間を表示します。このコマンドの出力は、たとえば次のように表示されます。

```
sse-10-0-0-0# show calendar biz-schedule all
```

```
*****
Schedule: systemschedule
Day          Open Hours
-----
Sunday       Open all day
Monday       Open all day
Tuesday      Open all day
Wednesday   Open all day
Thursday     Open all day
Friday       Open all day
Saturday     Open all day

*****
Schedule: normal
Day          Open Hours
-----
Sunday       None
Monday       08:30 to 17:30
Tuesday      08:30 to 17:30
Wednesday   08:30 to 17:30
Thursday     08:30 to 20:00
Friday       08:30 to 18:00
Saturday     09:00 to 13:00

*****
Schedule: holiday-season
Day          Open Hours
-----
Sunday       09:00 to 15:00
Monday       08:30 to 17:30
Tuesday      08:30 to 17:30
Wednesday   08:30 to 17:30
Thursday     08:00 to 21:00
Friday       08:00 to 21:00
Saturday     08:00 to 21:30
```

## ビジネス スケジュールの変更

次の設定モード コマンドは、既存のビジネス スケジュールを変更します。

**calendar biz-schedule *schedule-name***

ここで、*schedule-name* は、変更するビジネス スケジュールの名前です。指定した名前のスケジュールが存在しない場合、システムはそのスケジュールを作成します。

次の例では、既存のビジネス スケジュール「normal」を変更しています。

```
se-10-0-0-0(config)# calendar biz-schedule normal
Modifying existing schedule
se-10-0-0-0(config-business)# open day 1 from 09:00 to 12:00
se-10-0-0-0(config-business)# end
se-10-0-0-0(config)# exit
se-10-0-0-0#
```

## 営業時間または時間外の状態の変更

既存のスケジュールを変更するには、各曜日の営業時間と時間外を必要に応じて指定します。

### 営業時間のタイム スロットから時間外のタイム スロットへの変更

営業時間のタイム スロットから時間外のタイム スロットに変更するには、次の設定モード コマンドのいずれかを使用します。

**no open day *day-of-week* from *hh:mm* to *hh:mm***

**closed day *day-of-week* from *hh:mm* to *hh:mm***

ここで *day-of-week* は数字で表した週の曜日（1 が日曜日）、*hh* は 24 時間制の形式の時間、*mm* は 00 または 30 のどちらかの分です。

たとえば、月曜日の営業時間が 9 時～ 17 時である場合、**no open day 2 from 09:00 to 10:00** または **closed day 2 from 09:00 to 10:00** とすると、月曜日の午前 9 時～午前 10 時が時間外となります。

### 時間外のタイム スロットから営業時間のタイム スロットへの変更

時間外のタイム スロットから営業時間のタイム スロットに変更するには、次のコマンドのいずれかを使用します。

**no closed day *day-of-week* from *hh:mm* to *hh:mm***

**open day *day-of-week* from *hh:mm* to *hh:mm***

ここで *day-of-week* は数字で表した週の曜日（1 が日曜日）、*hh* は 24 時間制の形式の時間、*mm* は 00 または 30 のどちらかの分です。

たとえば、月曜日の時間外が 0 時～ 10 時である場合、**no closed day 2 from 09:00 to 10:00** または **open day 2 from 09:00 to 10:00** とすると、月曜日の午前 9 時～午前 10 時が営業時間となります。

## 例

次の出力は、ビジネス スケジュール「normal」を示しています。

```
se-10-0-0-0# show calendar biz-schedule normal

*****
Schedule: normal
Day          Open Hours
-----
Sunday       None
Monday       08:30 to 17:30
Tuesday      08:30 to 17:30
Wednesday    08:30 to 17:30
Thursday     08:30 to 20:00
Friday       08:30 to 18:00
Saturday     09:00 to 13:00
```

次のコマンドは、月曜日の 8 時 30 分～9 時 30 分を時間外とし、土曜日の午後 1 時～午後 2 時を営業時間とすることで、「normal」営業時間を変更しています。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# calendar biz-schedule normal
se-10-0-0-0(config-business)# no open day 2 from 08:30 to 09:30
se-10-0-0-0(config-business)# no closed day 7 from 13:00 to 14:00
se-10-0-0-0(config-business)# end
se-10-0-0-0(config)# exit
```

次の出力は、変更後のスケジュールを示しています。

```
se-10-0-0-0# show calendar biz-schedule normal

*****
Schedule: normal
Day          Open Hours
-----
Sunday       None
Monday       09:30 to 17:30
Tuesday      08:30 to 17:30
Wednesday    08:30 to 17:30
Thursday     08:30 to 20:00
Friday       08:30 to 18:00
Saturday     09:00 to 14:00
```

## ビジネス スケジュールの削除

次の設定モード コマンドは、特定のビジネス スケジュールを削除します。

```
no calendar biz-schedule schedule-name
```

ここで *schedule-name* は、削除するビジネス スケジュールの名前です。

次の例では、ビジネス スケジュール「normal」を削除しています。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# no calendar biz-schedule normal
se-10-0-0-0(config)# exit
se-10-0-0-0#
```

## 休日リストの設定

Cisco Unity Express では、会社が休日で休業しているときに、発信者に対してカスタマイズ可能なグリーティングが自動受付 (AA) によって再生されるように、休日リストを設定できます。次の各項では、設定のプロセスを説明します。

- [休日リストの設定 \(P.102\)](#)
- [休日リストの表示 \(P.103\)](#)
- [リストからの休日の削除 \(P.104\)](#)

## 休日リストの設定

システム管理者は、次のプロパティで会社の休日リストを設定できます。

- Cisco Unity Express Release 2.1 は、最大 3 つ (前年、当年、翌年) の休日リストをサポートします。ある年の設定済みエントリがない場合、システムはその年の休日はないものとして処理します。  
たとえば、当年が 2005 年で、2004 年 (前年) のエントリが設定されていない場合、システムは 2004 年の休日はゼロ (0) であるとして処理します。2005 年および 2006 年 (翌年) の休日は設定できますが、2007 年の休日は設定できません。
- リストには、1 年に最大 26 個の休日を設定できます。
- システムには、デフォルトの休日リストはありません。
- 前年のリストについては、管理者はエントリを削除できますが、追加または修正することはできません。
- システムは新しい暦年の開始時に、前年のリストを自動的に削除します。たとえば、システムは 2004 年の休日リストを 2006 年 1 月 1 日に削除します。
- 当年および翌年の休日リストを設定するには、グラフィカル ユーザ インターフェイス (GUI) の **Voice Mail > Holiday Settings** オプションを使用するか、この項で説明されているコマンドライン インターフェイス (CLI) コマンドを使用します。
- ある年からその翌年に休日をコピーするには、**Voice Mail > Holiday Settings** の GUI オプション **Copy all to next year** を使用します。

発信者が AA に到達すると、AA では初期プロンプトを再生し、当日が休日かどうかを確認します。休日である場合、AA は休日用のプロンプトを発信者に対して再生します。Cisco Unity Express パッケージで提供される初期状態の AA スクリプトでは、このプロンプト (AAHolidayPrompt.wav) の内容は「We are closed today. Please call back later.」です。

次のような有意なメッセージを録音することで、このプロンプトをカスタマイズできます。「We are closed today for a holiday.If this is an emergency, please call 1-222-555-0150 for assistance.Otherwise, please call back later.」

このプロンプトは、G.711 U-law、8 kHz、8 ビット、Mono 形式の .wav ファイルである必要があります。カスタム プロンプトをアップロードするには、GUI の **Voice Mail > Prompts** オプションを使用するか、CLI コマンドを使用します。または、Administration via Telephone (AvT) システムを使用して、このプロンプトを録音することもできます。このカスタム プロンプトをアップロードまたは録音したら、GUI の **Voice Mail > Auto Attendant** オプションを使用するか、CLI コマンドを使用して、新しいプロンプトを AA に関連付けます。新しいプロンプトは、設定されるとすぐに有効になります。システムを再起動する必要はありません。

## 手順

Cisco Unity Express 設定モードで次のコマンドを使用して、休日リストを設定します。

```
calendar holiday date yyyy mm dd [description holiday-description]
```

ここで *yyyy* は 4 桁の西暦、*mm* は 2 桁の月、*dd* は 2 桁の日、*holiday-description* は休日の説明でオプションです。説明が 2 語以上になる場合は、テキストを二重引用符 (“ ”) で囲みます。

*yyyy* の有効な値は、当年または翌年です。年または日が範囲外である場合は、エラーメッセージが表示されます。

```
se-10-0-0-0# config t
se-10-0-0-0(config)# calendar holiday date 2005 05 30 description "Memorial Day"
se-10-0-0-0(config)# exit
se-10-0-0-0#
```

## 休日リストの表示

休日リストを表示する CLI コマンドは数種類あります。これらのコマンドは、Cisco Unity Express EXEC モードで使用します。

### すべての休日リストの表示

次のコマンドは、システムに設定されているすべての休日リストを表示します。

#### **show calendar holiday**

このコマンドは、すべての年のすべての休日の日付と説明を表示します。このコマンドの出力は、たとえば次のように表示されます。

```
se-10-0-0-0# show calendar holiday

*****
Year: 2004
*****
September 04   Labor Day
November 25    Thanksgiving

*****
Year: 2005
*****
July          04   July 4th
September 05    Labor Day
November 24     Thanksgiving
December 25     Christmas
```

### 特定の年の休日リストの表示

次のコマンドは、特定の年に設定されている休日を表示します。

#### **show calendar holiday year yyyy**

ここで *yyyy* は 4 桁の西暦です。このコマンドは、指定した年に設定されているすべての休日の日付と説明を表示します。その年に休日が設定されていない場合は、「No holidays found for the specified year」というメッセージが表示されます。このコマンドの出力は、たとえば次のように表示されます。

```
se-10-0-0-0-0# show calendar holiday year 2005

*****
                Year: 2005
*****
July           04      July 4th
September      05      Labor Day
November       24      Thanksgiving
December       25      Christmas
```

## 特定の月の休日リストの表示

次のコマンドは、指定した年の指定した月に設定されている休日を表示します。

**show calendar holiday year *yyyy* month *mm***

ここで *yyyy* は 4 桁の西暦、*mm* は 2 桁の月です。このコマンドは、指定した年の指定した月に設定されているすべての休日の日付と説明を表示します。その月に休日が設定されていない場合は、「No holidays found for the specified month」というメッセージが表示されます。このコマンドの出力は、たとえば次のように表示されます。

```
se-10-0-0-0-0# show calendar holiday year 2005 month 12

*****
                Year: 2005
*****
December       25      Christmas
```

## リストからの休日の削除

リストから休日を削除する CLI コマンドは数種類あります。これらのコマンドは、Cisco Unity Express EXEC モードで使用します。

### 休日リストからの特定の休日の削除

次のコマンドは、特定の休日を削除します。



#### 注意

この操作は元に戻せないため、このコマンドは注意して使用してください。年を入力した後で Enter キーを押さないでください。押した場合は、その年全体の休日リストが削除されます。

**no calendar holiday date *yyyy* *mm* *dd***

ここで *yyyy* は 4 桁の西暦、*mm* は 2 桁の月、*dd* は 2 桁の日です。

```
se-10-0-0-0-0# no calendar holiday date 2004 11 25
```



## 特定の月の休日の削除



## 注意

この操作は元に戻せないため、このコマンドは注意して使用してください。使用することで月全体の休日の設定が失われる場合があります。

次のコマンドは、指定した年の指定した月に設定されている休日を削除します。

**no calendar holiday year *yyyy* month *mm***

ここで *yyyy* は 4 桁の西暦、*mm* は 2 桁の月です。

```
se-10-0-0-0# no calendar holiday year 2004 month 09
```

## 特定の年の休日の削除



## 注意

この操作は元に戻せないため、このコマンドは注意して使用してください。使用することで年全体の休日の設定が失われる場合があります。

次のコマンドは、特定の年に設定されているすべての休日を削除します。

**no calendar holiday year *yyyy***

ここで *yyyy* は 4 桁の西暦です。

```
se-10-0-0-0# no calendar holiday year 2004
```

